

日 時：2007年3月29日（木）12：00～13：00

場 所：東海大学14号館1階会議室

出席者：安東，家，梅村，海部，大橋，郷田，佐藤，柴田，須藤，谷口，舘山，中川，永田，宮川，山本，渡部　以上16名

有効委任状提出者：池内，井上，岡村　以上3名

他に理事会から土佐理事長，柴橋・國枝副理事長，花岡・高田・北本・田村・中本理事および東條事務長が出席した。

議事に先立ち議長に大橋氏，署名人として梅村，須藤両氏を選出した。

報 告

- 前回議事録の確認
 - 資料1に基づいて前回の議事録の確認が行われ承認された。
- 当年会について
 - 中本年会理事より開催中の2007年春季年会の状況について口頭で説明があった。講演数は約630, 登録参加者数は2日目午前中までで720名程。3月27日に行われた記者発表については9社の参加があり，WEBや新聞紙面に記事として掲載された。
 - なお，3月27日当日のある新聞の夕刊に記者発表の内容が載ったことに対して，別の報道機関より，午後の記者発表が当日の夕刊に記事として間に合うはずがなく，報道機関の常識には反しているので今後の対策を明確に示して欲しい旨クレームがあったことが紹介された。議論の中で報道メディアには現在色々なものがあり，常識というものも時代とともに変遷していることも考えて，各メディアに関して細かく規則を決めてリリースの整理をするべきであろうとの意見が出された。秋季年会からの適用を考えると，至急対応を行っていく旨了承された。
- その他
 - なし。

議 題

- 100周年記念年会について
 - 柴橋副理事長より資料2に基づいて100周年記念年会について説明があった。　3月23日に記念講演会と祝賀会を催す予定。記念講演会は一橋記念講堂，祝賀会は学士会館を予定しており既に会場等は押さえてあり，記念講演については尾崎洋二氏に依頼して承諾を既に得ていることもあわせて報告された。
 - 年会については3月24-27日にオリンピック記念青少年総合センターで行い，総会，懇親会等も通常どおり行う予定であり，会期中に記念展示会も催すことを予定している旨，あわせて報告された。会場等の予約はすべて終わっており，詳細な予算見積もりも提示された。公開講演会については有楽町朝日ホールを会場にして3月29日に行う予定であること，担当は渡部氏を中心とした学会の天文教育委員会であることが報告された。
 - 展示会については大きなものや歴史的な書物などを展示できたら良いのではないかという話が出ており，国立科学博物館との協力を考えていること，博物館側での企画の提出等の期限が迫ってきていることもあり，至急対応をしていく必要があることが報告された。学会側の担当者については現在検討中であることもあわせて報告された。展示会について現在の案では世界天文年との関連性なども念頭に入っているが，この展示会の位置づけをもっと明確にして時期ややり方も含めてフレキシブルに対応するべきであるとの意見が出され，今後，注意深く状況を見ながら検討を進めていく旨了解された。祝賀会について，想定している人数が200人ほどであるが，人があふれた場合の対応は考えているのかとの質問があり，やむをえぬ場合には立食形式に変更することも考えるが，座席は一定数は用意する必要があるとの認識が示された。人数の想定も含め，今後も検討を進める。
- その他
 - 第7回EAMA（東アジア天文学会議）シンポジウムについて
 - 資料3に基づいて海部氏より報告があった。2007年10月9-12日に開催予定であること，準備は順調に進んでいること，翌年に世界天文年を控えていることもあり，東アジア全体に対する教育普及にも力を入れることでさらなる広がりを目指すことを考えている旨報告された。また，春季年会中に第1回準備会を行ったこともあわせて報告された。天文学会が共催することに関しては理事会でも了承されており，積極的に進めることが了承された。
 - 世界天文年について
 - 資料4に基づいて，海部氏より世界天文年についての各国の動きや日本の取り組みの現状などが報告された。3月に行われた世界天文年会議の報告の中で，参加国は多いが米英加などをはじめとする欧米の動きが速くしっかりしている点，それに比べて日本をはじめアジアの取り組みが遅れており早急な対応が必要である点が指摘された。日本での取り組みとしては，既に国立天文台やJAXAが共催として参加しており，天文学会としても当面天文教育委員会をコンタクト先として，今後学会内にワーキンググループを立ち上げていくことが理事会でも承認されている点が報告された。日本の動き全体を活性化していく上で，天文学会をあげての組織作りが重要であるという認識が確認され，今後世界天文年日本委員会の立ち上げが急務であることが指摘された。この組織が全体の統括責任を負うわけであるが，寄付金等を集めたりする関係もあるので任意団体等として立ち上げてよいのかという質問があり，現状では天文財団を受け皿にすることを検討中であることが報告された。国立天文台やJAXAなどの人によるコアグループを早めに形成して早急に活動を活発化させることが了承され，天文学会としても積極的に取り組むことが了承された。また，世界物理年における日本での活動の反省も考慮しながら推進していくべきであるとの意見が出され，了承された。
 - Asian-Pacific Journal の現状について
 - Asian-Pacific Journal の現状について質問があり，参加者の中で状況を一番知っているということで梅村氏が回答した。現在，もともとの Asian-Pacific Journal とは別にインドと中国がそれぞれの国内天文学術雑誌を統合するという計画に韓国も加わるという話が進んでいること，日本としては動向を注視している段階であり，ジャーナルワーキンググループも解散ではなく休止中であることが紹介された。議論の中で日本として今後どうしていくのかを考える上で動向の確認と報告が随時必要であろうということになり，ワーキンググループの再開など具体的な動きをするべきであろうとの意見が出され，今後検討していくことで了承された。
 - 学術会議等の最近の動きなどについて
 - 海部氏より口頭で学術会議の最近の動きについて説明があった。若手研究者の育成を目的とした若手・人材育成検討委員会が設置され，今後の研究環境等のあり方などについて活発な議論を始めていること，また，理数教育に関して各学会が集まって連合会を作っているが，それに天文学会が参加していないことが報告された。後者については今後，学会の教育委員会と相談しながら連合会への参加や今後の活動について話を進めていくことが了承された。

今回は7月7日に開催予定で，場所についてはJAXAの丸の内オフィスなどを候補に調整し，後日連絡することで了承された。

2007年4月18日

議 長 大橋隆哉

署名人 梅村雅之

署名人 須藤 靖